

平成30年度 第2回学校関係者評価報告書

鳥取県立米子白鳳高等学校
学校長 上田 祐二

評 価 日	平成31年 1月26日 (土)	
評 価 ・ 提 言	学校の所見・改善策等	
<p>1. 今年度の自己評価について</p> <p>(1) 重点目標の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援が必要な生徒の割合が多いが、ユニバーサルデザインや合理的配慮などの教員研修の充実や、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーとの連携、特別支援教育支援員、白鳳サポータの配置など、生徒一人一人を大切にされた教育が実践されている。 ・和傘作りや銭太鼓、地元保育園との連携や彼岸花の植栽など、地域と連携した体験的学習が多く、生徒の社会的自立にもつながり評価できる。 <p>(2) 説明・公表について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校3, 4年間では生徒個々の課題が解決しないことでも、卒業後何年か経って成果の出る場合もある。それを見越した評価はできないものか。 ・学校評価についてはシビアにしてあるが、評価は目標設定のための手立てである。次につながることを考えれば、よい評価では目標が簡単すぎると考える。 <p>2. 今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習発表会では生徒一人一人が自分の課題と一生懸命向き合う姿が見られた。このような経験をたくさん積むことで生徒自身様々な気づき生まれ、生徒自身の成長につながるよい機会となっている。 ・何年も続けている和傘作りでは、素材の一つ一つにも興味を示し、最後の一本まで挫折しないで取り組む生徒の姿が感じられ素晴らしかった。保育園との交流では、昨年度と違い、先生が生徒に目標を明確に示され取り組まれたことにより、保育士も関わりやすく、生徒自信も目標達成に向け自信を持って取り組むことができていた。今後も継続して積み上げていくことが必要であると感じる。 <p>3. 取組改善のための提言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の状況や通級指導などの説明があったが、今後の生徒募集の方針を明確にする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員間での情報共有を密に、また、外部機関ともより一層連携の強化を図り生徒支援にあたりたい。 ・地域と連携した体験的交流活動を通して、「学ぶ意欲の喚起育成」や、「社会的な自立に向けた支援」に取り組みたい。 ・評価については中長期目標を達成するため、単年度ごとに重点目標を定め、その取組を評価している。 ・学校裁量予算を有効に活用し生徒にとって興味、関心が持てる体験的学習に継続して取り組みたい。また、このような機会を捉え、生徒の学校生活の充実や、一人一人の課題解決、成長につなげて行きたい。 ・支援を必要とする生徒だけではなく、様々な学びのニーズに応じ、一人一人の状況に寄り添った教育を推進していく。 	